

クラウドファンディングを駆使し、高齢者など地域住民を支えたい

山村社会に革命を——。人口約1700人の高齢化するまちを「住みやすい場所」にするため、2人の有志が立ち上がった。クラウドファンディングを活用し交流拠点を開設。食事の提供や惣菜の販売さらには買い物が困難な地区に車で出向いて生鮮食品や日用雑貨などを販売し、高齢者など地域住民の生活を支えている。

## 山村革命の ベースはできました



**高齢者の交流拠点を開設**

2人の若者が立ち上がり、  
食料品店3代目の菅家三吉さん  
(41歳)は、高校を卒業して料理  
専門学校で学んだ後、弁当店や飲  
食店に勤務。22歳のときに実家へ  
戻り、食料品販売の傍らで祖父の  
時代から手がけていた移動販売に  
本格的に取り組み始めた。

まちの高齢化と人口減少が進む  
なか、最盛期には6、7店舗あつ  
た食料品店は2店舗に減少。さら  
にタクシー会社も廃業し、高齢者  
などの買い物が一層困難な状況に  
なった。商工会長や役員から、「こ

の状況をなんとかできないか」との声が上がり、5年前に青年部などが中心となつて委員会を立ち上げ、まちの活性化策について検討を開始。そこに菅家さんもメンバーの1人として参加。町から商工會に出向していた地域おこし協力隊の佐藤綾乃さん（25歳）も委員会の事務局を担当した。

委員会では、「高齢者などが交流できる拠点の開設を検討したが資金の話になるとなかなか前に進

「いずれ実家に戻って、父親が手がけている食料品店で移動販売を本格的にやりたい」と考えていた菅家さん



貴い物が困難な高齢者などを支援するために行つてゐる移動販売

した惣菜などを販売している

## 移動販売で買い物が 困難な高齢者を支援

らないのなら、自分がやるしかないと、その思いを強めていた。それを耳にした菅家さんは、「若い女性1人に任せるわけにはいかない」と引き受け手がいなかつた社長を引き受け、佐藤さんは副社長に就任。女性スタッフ1人を加え、地元の信用金庫を通じて250万円の購入型ファンドを設定し、購入者には金額に応じてSAMPSIONで使える食事券や惣菜詰め合わせ、名前入りの木製プレートなどを贈る仕組みにした。

「ハハハことやつたなあー。がんば

運営資金調達には、クラウドファンディングも活用

交流拠点の建物は菅家さんの祖父が經營し、空き店舗となっていた施設を活用。店舗の改修費や厨房機器購入費、運転資金など1250万円は町の補助金に加え、イ

同店では青年部が開発した地鶏ラーメンや温泉ラーメンなどランチ提供のほか、高齢者や共働き世帯、単身者の食事をサポートするため、佐藤さんらが店舗内で調理

「山村革命のベースはできました  
SAMPSIONを基点に、我々の  
思いの実現に向けて一步一歩近づ  
けていきたい」



01／空き店舗を活用した交流拠点「SAMPSON」。まちの食料品店の廃業が続くなかで、高齢者などの買い物需要を支えつつ、まちの活性化を目指して営業している 02／SAMPSONの共同経営者である佐藤さん。地域おこし協力隊として3年間、まちの振興に携わってきた 03／店舗の軒先に置かれたショーケースには、地元で獲れた食材を使った惣菜が並ぶ 04／商工会青年部が開発し、SAMPSONで提供している地鶏の塩白湯ラーメン 05／福島県の西部、只見川が流れる豊かな自然に囲まれた三島町



の状況をなんとかできないか」との声が上がり、5年前に青年部などが中心となつて委員会を立ち上げ、まちの活性化策について検討を開始。そこに菅家さんもメンバーの1人として参加。町から商工会议に出向していた地域おこし協力隊の佐藤綾乃さん（25歳）も委員会の事務局を担当した。

委員会では、「高齢者などが交流できる拠点の開設を検討したが資金の話になるとなかなか前に進まなかつた」（菅家さん）

3年間の協力隊の任期が終わる目前で、その後の身の振り方を思考していた佐藤さんは、「誰もや